

人になれとは、ありのままの自分を知り受け入れていくこと、自己を大切な存在として受け入れ、愛し成熟していくことであると考えます。

私たちは、実習の場で計画した援助へのアドバイスを受けることにより、自分の知識量や技術力を客観的に知ることができました。実習で環境整備を行ったときに指導看護師さんから、きれいにすることだけが目的ではなく、その患者さんの生活状況や会話、ベッド上の落屑などの様子から、状態を把握することが大切だというアドバイスを受けました。それを理解し実施することで、安全安楽な、より良い援助へとつなげることができました。私たちは自分の持ち味を大切にしながらも、他者の意見を受け入れることで、いま置かれている自己の状態を把握できる看護師であり続けたいです。また、自分を受け入れるように、他者をも大切な存在としてとらえ受け入れたいと思います。そのような存在であるために「自分が何者であるのか」を絶えず追求し、磨き続けます。

奉仕せよとは、成熟した生き方として、隣人となるために生きることを示していると考えます。「隣人」とは「いる」のではなく「なる」ものです。私たちは具体的な行い(奉仕)によって隣人となることであり、自分から他者の存在を認め、何ができるかを常に考え、行動します。

実習では、自分の意思表示をすることが思うようにできない方、不安や恐怖を感じ心を閉ざしている方、援助を受けることに遠慮をしている方など、様々な患者さんと出会い、関わる機会をもつことができました。そのような患者さんから言葉だけでなく、その反応や行動の観察から、患者さんの気持ちやニーズを読み取ることで、求めることを考え、看護が実践できることを経験しました。苦しんでいる患者さんに寄り添い、真摯に向き合い、何ができるのかを第1に考え、その時にできる精一杯の看護を実践していきます。

私たちは看護を必要とする人に、その時にできる最善の方法を考え、実践することを通して、看護師として成熟した人となれるように努め、励みます。